

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆにこーんみゆうず(放課後等ディサービス)		
○保護者評価実施期間	2026年2月5日		2026年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年2月5日		2026年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽プログラムやゆにこーん畑、季節感のある活動を通して感性・社会性・心身の発達を促すとともに、必要な感覚を刺激し、学習能力や運動能力の向上につながる感覚統合を促す療育を行っていること。	音楽療育の10のプログラムのひとつひとつに意図を持たせ、様々な感覚を刺激できるよう工夫し、感覚統合を促して学習能力や運動能力の向上を目指している。また、子どもたちが飽きずにかつ楽しく活動ができるように、季節感を取り入れながら週ごとや月ごとに歌や内容を変えるよう工夫している。プログラム以外でも、ゆにこーん畑や様々な活動の中で、創造力や感性の発達を促す取り組みを行っている。	子どもひとり一人の特性や興味を理解しながら、経験値を増やすプログラムの提供や、行事の計画を行っている。
2	子どもたちの未来を見据え、子どもたちが集団の中でこそ培われるスキルを養い、社会の中でいきいきと生き抜く力を身につけることに視点を置き、療育をこころがけていること。	集団活動の中で、必要時はSSTを取り入れながら、お友達の見解や感情を理解する力を育み、また、コミュニケーションをとり、協力したり競争する機会を持つ中で、社会性の発達を促す療育を心がけている。	引き続き、ひとりひとりの特性を理解し、必要なニーズを見極め、「未来に生き抜く力」を高める支援の充実を図る。1年をかけて一つのテーマについて挑戦し、「やりきった」自信や、得意なことを培い、社会の中で自信を持って生き抜く力を養う取り組みを行う。
3	職員がストレンクス視点を持ち、自己肯定感を高めることを目指した支援をしていること。	子ども達の可能性を信じ、子ども一人一人の「できること」「得意なこと」に目を向け、その強み(ストレンクス)を伸ばすことに意識を持った支援を心がけ、子どもたちの自己肯定感を高める支援を目指している。また、職員間の連携を密にし、共通認識で支援ができるよう取り組んでいる。	引き続き、全職員が子ども達ひとりひとりのストレンクスを見極める洞察力を向上させることができるよう取り組む。また、その力をどう伸ばしていけばよいかを事業所全体で考え、支援する。その支援の延長線上に、「できないこと」への克服を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ないこと	日々の療育が枠として決められているので、交流する機会がなかなか作れない。地域の行事に出店したり地域のボランティアさんの受け入れはしているが、事業所に招くなどして、子ども達が地域の子どもと一緒に活動する機会を設けようと考えてもなかなか交流の提供は時間や場所の問題からも現時点では難しい。また、ほとんどが併行通園である。	系列の保育園との合同行事を増やしたり、土曜開所の季節感ある催しの際に、地域を巻き込んだ開催ができないかの検討。
2	保護者同士の交流機会の少なさ	大きな外部会場を借りてのクリスマス会などの開催や、お相撲さんを招いての交流会を開催したが、なかなか保護者同士の交流には結びつかなかった。	計画していた勉強会と、保護者交流会を兼ねた会の開催が、外部講師を招いて令和8年度に3回開催することが決定した。保護者様のニーズに応じた内容となるよう検討を重ねていく。
3	安全計画等に基づく取り組み内容の保護者様への周知	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練等を行い、みゆうず通信やInstagramにて発信しているが周知が徹底できていない。避難訓練に参加する子どもの保護者様には事前にお知らせしているが、曜日により、利用する子どもが違うために、訓練も一度も周知できていない方もいる。	「みゆうず通信」やInstagramにて、音楽療育のプログラム内容と共に、みゆうずが策定している安全計画や、各避難訓練なども引き続き掲載し、周知できるよう努める。